



2023年6月26日
ジャパンマテリアル株式会社
日本トランスシティ株式会社
日本貨物鉄道株式会社

半導体材料の長距離輸送におけるモーダルコンビネーションの 実証開始について

ジャパンマテリアル株式会社（本社：三重県、代表取締役社長：田中 久男、以下「JM」）、日本トランスシティ株式会社（本社：三重県、代表取締役社長：安藤 仁、以下「TRANCY」）、日本貨物鉄道株式会社（本社：東京都、代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼 新、以下「JR貨物」）は、半導体の製造過程で使用する「半導体材料ガス」の輸送について、物流の2024年問題やカーボンニュートラルに向け、持続可能な物流体制の構築の為、貨物鉄道を利用したトライアル輸送を開始しましたので、お知らせします。

1. 概要

加速するデジタル化により、半導体産業の重要性が高まっており、半導体の国内生産を進める一方、製造に使用する半導体材料ガスや危険品を含む薬品類などのサプライチェーンの強靱化も重要な課題ととらえております。

今回のトライアル輸送は、三重県と岩手県間において、トラックのみで輸送している「半導体材料ガス」を、モーダルコンビネーションに向けた取組みとして、トラックと貨物鉄道を併用した輸送の検証を行う事を目的に、トライアル輸送を開始しました。

2. 各社のコメント

- ・JMは、半導体産業のサプライチェーンにおける二酸化炭素排出量の削減と持続可能な物流体制の構築を通じて、顧客の安定操業とグリーン調達活動に寄与できるよう、本取組みを推進してまいります。

- TRANCY は、物流が環境に与える影響や 2024 年問題による労働力不足が社会的に危惧される中で、今回のトライアル輸送は、二酸化炭素の削減および物流の効率化による作業負荷軽減を図る重要な取組みであると位置づけております。今後も本取組みを推進することで、物流事業者としてお客様のサステナビリティに貢献したサービスの提供に取り組んでまいります。
- JR 貨物は、三重県の四日市駅から岩手県の水沢駅までの貨物鉄道輸送を担います。CO2 出量が最も少ないという環境特性や高い労働生産性などの鉄道の優れた特性を活かし、「JR 貨物グループ長期ビジョン 2030」で掲げた「物流生産性の向上」や「グリーン社会の実現」を目指します。



半導体材料ガスをコンテナに積載



四日市駅に向かうトラック